

令和 6 年 4 月 1 日

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 静岡県静岡市葵区追手町 9 番 6 号
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 教育長 池上 重弘

1 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	はままつし
管理機関名	浜松市
代表者職名	市長
代表者氏名	中野 祐介

②管理機関（産業界）※ 2 団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	やまははつどうきかぶしきがいしゃ
管理機関名	ヤマハ発動機株式会社
代表者職名	代表取締役社長
代表者氏名	日高 祥博

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	しずおかけんきょういくいいんかい
管理機関名	静岡県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者氏名	池上 重弘

2 指定校名

学校名 静岡県立浜松城北工業高等学校
学校長名 寺田 弘隆

- 3 事業名 やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト
～ 社会で活躍できるスペシャリストの育成 ～

4 事業概要

○ヤマハ発動機株式会社、浜松市、静岡県教育委員会及び本校の連携によって、地元企業が求める人材像を共有するとともに、人間性と専門性を備えたスペシャリストの地域産業人材育成のエコシステムを達成する。

○「第2期はままつ産業イノベーション構想」において、「ロボティクス」は7つの成長分野の一つに掲げられている。本事業では、ヤマハ発動機株式会社を中心として、(公財)浜松地域イノベーション推進機構と連携することで、ロボット産業で働く即戦力を育成する。

○ヤマハ発動機株式会社は世界トップクラスのロボティクス・デジタル人材の派遣や包括的な実習環境の提供によって、浜松市は地域産業の現状共有や地域の魅力の効果的発信によって、静岡県教育委員会はそれらの支援を総括することによって、本事業を行う。

○ヤマハ発動機株式会社より派遣されたマイスター・ハイスクール CEO が非常勤(週1回)マイスター・ハイスクールビジョンの実行と組織のマネジメントに従事する。

○ヤマハ発動機株式会社ロボティクス事業部より派遣された常勤の実務家教員が学校設定科目「課題研究」(12時間/週)及びロボティクス実習(35時間/夏季休暇中の集中講義)を行う。

- 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用(□で囲むこと)

ア 学校設定教科・科目を開設している

イ 教育課程の特例を活用している

- 6 事業の実施期間

契約日～令和7年3月31日

- 7 令和6年度の実施計画

- (1) 浜松市産業部、(公財)浜松地域イノベーション推進機構、ヤマハ発動機株式会社、静岡県立浜松城北工業高等学校の4者で、連携委員会の設置に向けた準備をする。
- (2) 産業実務家教員は「課題研究」及び学校設定科目「ロボティクス実習」「ロボティクス概論」を担当する。課題研究ではメインテーマを「ロボティクス」とし、工業4科にサブテーマを割り振ることで4科連携体制を推進する。また、新しい教育課程の検討・準備、講話「ロボット学習のススメ(仮題)」を実施する。
- (3) 校内委員会を週1回開催する。教頭を長とし、CEO、産業実務家教員を含む15人程度で組織する。運営業務(講師招請、発表会運営、4科連携、各種事務手続き、広報等)を分担して担当する。校内委員会及び工業4科だけでなく、全教職員が関わる全校体制の構築をする。
- (4) 専門性の向上としてロボティクス・デジタル人材育成にむけた学習内容の更新を実施する。工業4科の課題研究への取り組みとして「ロボティクス」に取り組むチームに予算を配分し、意欲ある教員及び生徒の掘り起こしを試みる。
- (5) 各科連携を全校規模に広げる。事業を広報するために地域のイルミネーション展示イベント等に出展する。
- (6) 地域の製造業を知るためにロボティクスに関する企業を見学する「産業見学」を実施

する。また、日本式のものづくりの手法が海外で成功していることを知るために、本校独自の海外インターンシップを実施する。

(7) 令和7年度移行の自走について検討する。

<添付資料>

令和6年度教育課程表

8 事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
池上 重弘	静岡県教育委員会・教育長
日高 祥博	ヤマハ発動機株式会社・代表取締役社長
中野 祐介	浜松市・市長
佐藤 知正	東京大学・名誉教授 (日本ロボット学会・元会長)
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
都築 明宏	ヤマハ発動機株式会社（CEO）
南部 秀樹	ヤマハ発動機株式会社（産業実務家教員）
中村 大輔	静岡県教育委員会高校教育課・課長
大澤 貢	静岡県教育委員会高校教育課・指導監
山口 亮祐	静岡県教育委員会高校教育課・教育主幹
梨本 裕晃	静岡県教育委員会高校教育課・主査
井島 秀樹	静岡県立清水東高等学校・校長
中村 昭彦	ヤマハ発動機株式会社 人事戦略部 人材マネジメントグループ主管
齋藤 昭雄	ヤマハ発動機株式会社 ロボティクス事業部営業統括部SMT国内営業部国内営業G
下位 基弘	浜松市産業部・次長（産業振興課長）
八木 綾子	浜松市産業部産業振興課・主幹
山下 裕也	浜松市産業部産業振興課・主任
金子 和佳	（公財）浜松地域イノベーション推進機構 事業推進部・技術支援グループ長
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長
鈴木 浩	静岡県立浜松城北工業高等学校・副校長
橋本 徳一	静岡県立浜松城北工業高等学校・教頭
水野 聡子	静岡県立浜松城北工業高等学校・事務長

9 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会		実施							実施			
事業推進委員会			実施					実施				
自走化のためのワーキンググループ	毎月実施		▼									
校内委員会	毎週実施		▼									
CEO 事業アドバイス	週1回実施		▼									
CEO 講話				実施					実施			
CEO 教育課程検討	週1回実施 ▼											
実務家教員による課題研究 実務家教員による 学校設定科目「ロボティクス実習」 実務家教員による 学校設定科目「ロボティクス概論」	実施 募集 募集	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施			
評価アンケート	実施					実施					実施	
産業見学											実施	
ISO 研修				実施				実施				
成果発表会									実施			

10 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1.を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

11 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

12 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者・免税事業者 (□で囲むこと)